

眼 汽車（電車）― 停る― 所。五指の指頭を左にさし掌を内側にした右手を電車或は汽車になぞらえて、右から左へ上下に振動させながら移動させ程よき位置に停めて、「所」の手まね（掌を下に向け五指を彎曲した手を、停車したその位置の上に小さく円を描いて圧えるようにして置きとめる。）

枝 指頭を上にした両手の人差指をV字形に組み、そこから右手の人差指を斜め上方に伸びるように上げて行く。木の枝の形を模写したもの。

会得する 五指の指頭を左にさし掌を内側にした右手を胸にあてがい、さつと腹まで撫で降す。腹にのみ込めたと云う意味。「理解する」「解った」の手まねともなる。

蝦 右手（手甲は上向け）の指頭を左にさした人差指と中指を曲げては伸ばししながら右へ移動させる。蝦の游泳の姿態を模写した

もの。

繪具 「色」と同じ手まね。

偉い 「腕利き」と同じ手まね。

○「偉い人」腕利き― 人（男性或は女性を表わした手を上へさし上げる）。

選らぶ (1) 両手の夫々の人差指と親指の指頭を合わせて、胸の前で物をつまみ上げるように、交互に上へ引ける。前にある数多い物の中から選んでこれと思う物をつまみ上げること。(2) 掌を内側に五指の指頭を上にした左手を胸の前にかざし、その上に、右手の人差指と指頭を合わせたのを持って行き、左手の五指の中の何れか一指を選び出すように、つまみ上げる身振。

宴会 会合― 酒盛。

延期 下にさした五指の指頭を集め合わせた両手を胸の前に間隔を置いて左右にならべて、そのまま、両手の位置を胸の左の方へ置

きかえる。「事」を先き（左方は未来）に置きかえること、即ち「延期する」「日延すべし」となる。

演劇 手甲を前に向けた左手の拳を頭の左横にかざし、右手も拳にして（手甲は上向け）その腕の肘を右へ張る。そして、左手の拳をくると廻わして手甲を後向けに、同時に右手の拳を前斜めに突き出す。歌舞伎俳優が舞台上で見得を切る形式から来た手まね。

演習 拳にした両手で胸板を同時に二三度打つ。相撲取りが兄弟子の胸板にぶつかかっで行く稽古を表わしたものか。或は、拳で胸板を打つのは、技術を「胸にしまい込む」と云う意味か。「稽古」「練習」と同じ。

援助 指頭を上にした親指の右手を、五指の指頭を上にしたし掌を前に向けた左手で前に押し出すような運動を二、三度繰返す。人物（右手親指）を後押しをすること。「後援」



「応援」の手まねともなる。
演説 「政治」と同じ手まね。政治と演説の不可分な関係から、この両者を

同じ手まねで表わすものか。

縁談 結婚—相談。

延長 五指の指頭を集め合わせた両手を左右に互の指頭でつけ合わせて、紐をつまんで引き出し右手で紐を伸ばすような身振り。

煙突 五指をまるく屈めた両手を上下にして円筒の形をつくり、次に何れかの手を煙として一方の手（円筒様に五指を屈めたまま）下から中をくぐらせて上に出し、五指を開いて横へ流して行く。

遠足 五指の指頭を上にしたし掌を左に向け